

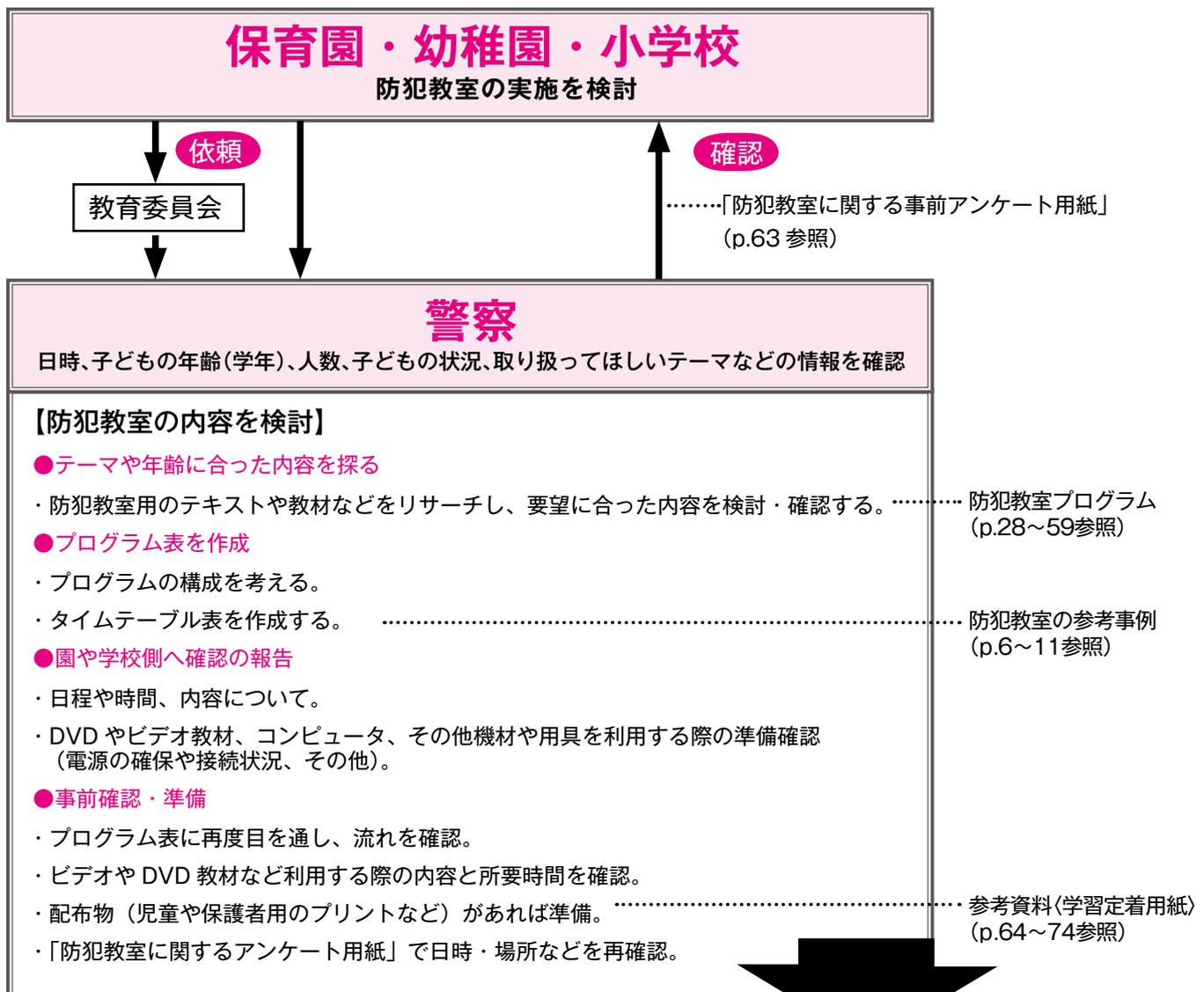
## 《第3章》

# すぐに活用できる防犯教室プログラム

## 防犯教室実施までの流れ

防犯教室を開催するにあたり、効果を上げるためにもっとも重要なことは、事前に行う園や学校との内容の確認です。対象の子どもの年齢、人数、会場、時間、使用できる機材など、事前に確認してその状況にあったプログラムを構築します。事前の確認を十分に行うことで当日の不安が軽減し、流れがスムーズになるため、限られた時間を有効に使うことができます。

教室当日まで時間の猶予がないなど、直接会うことが難しい場合にはファックス、メールで情報を得て、その内容を記録しておきましょう。さらに、記録した書類をファイリングしておくことで次回開催時のプログラム構築の参考になります。



## 〈4つの分け方・4つの視点・4つの段階〉とプログラムの立て方

プログラムを立てるときには、過去に防犯教室を開催したことがあるか、ある場合にはどのような内容であったかを把握し、できるだけ「いま、子どもたちに伝えたいこと（教えたいこと）は何か」、「どんなことに不安を感じているのか」といった、園や学校のニーズを反映させるようにしましょう。「お任せします」という回答が出てきたときには、過去の実践事例をいくつか紹介し、関心の強いものを中心に組み立てる方法もあります。

防犯教育を継続するには園・学校の前向きな取り組みが大切です。以下の「4つの分け方・4つの視点・4つの流れ」を説明し、プログラム立案時には、できるだけ教職員に積極的に関わってもらおうとよいでしょう。

### ① 4つの分け方

子どもの年齢で4つに分け（p.14～21参照）、それぞれの成長や発達、物事の理解度に応じた実践例を紹介。「この年齢の子どもには、この内容をぜひ覚えてほしい」と思うものをピックアップ。

#### 〈4つの分け方〉

就学前（幼児）

小学校低学年（1～2年程度）

中学年（3～4年程度）

高学年（5～6年程度）

### ② 4つの視点

「防犯」を4つの視点でとらえ、子ども自身が危険回避能力を身につける内容を構成。

#### 〈4つの視点〉

危険予測

危険回避

意思表示

相談・報告

### ③ 4つの段階

1回の防犯教室を4つの段階で構成し、めりはりのある定着度の高いプログラムを目指す。

#### 〈4つの段階〉

導入

展開

まとめ

ふりかえり

#### 【プログラムの立て方・例】

対象：低学年／テーマ：不審者に声をかけられたときの対処法／時間：45分

導入・約5分 …… 「みんなにとって、大切な人は？」（p.38参照）

展開1・約20～25分 …… 防犯教材「ざわざわ森のがんこちゃん ここはあぶないよ！あそこはだいじょうぶ！ー子どものための防犯マニュアルー」DVD視聴（必要なチャプターを視聴・p.44参照）

展開2・約15分 …… 「声をかけられたとき、どうする？」（p.42参照）

まとめ・約2～3分 …… （p.41参照）

ふりかえり …… 防犯教室中にやってもよいし、後で（クラスに戻ってから・家庭で）やってもよい。

※以下（p.28～59）は子どもの年齢別に分けて実践例を紹介していますが、これは固定的なものではありません。言葉づかいに気をつけたり説明をくふうするなどしてアレンジし、該当年齢の枠を越えて積極的に活用してください。